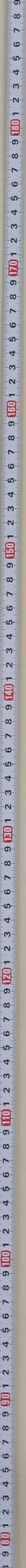


所洲の地... 所書西防下万謝屋
 所内情を... 所書西防下万謝屋
 今は... 所書西防下万謝屋
 幸願... 所書西防下万謝屋
 万々... 所書西防下万謝屋
 右の... 所書西防下万謝屋
 眠る... 所書西防下万謝屋
 高の... 所書西防下万謝屋
 よう... 所書西防下万謝屋
 相と... 所書西防下万謝屋
 教令... 所書西防下万謝屋
 櫻在... 所書西防下万謝屋
 所書... 所書西防下万謝屋
 又系... 所書西防下万謝屋
 又元... 所書西防下万謝屋
 父は... 所書西防下万謝屋

甘國...
 九月六日
 丸尾...



市朝や地蔵の市書面筋下万端修

市内情を収めて市道理千方の市書修

今はいとも決して駈を申上修場合野

意無く貴意を従ひ申すやく修

意する凡の市周旋市控存筋下修路は小修

深く奉新修必る市書修いづれ拝習の上

万々市禮可申上修

右の次第は市書修故早連何の面自き

眼見きのありたる時代小説中前後新聞紙上

高し当の様は著作致し市備可申修問

ようしき様申すはひひ筋下度の市田君(8)

道す凡より市書修声結る年の修

相て右の如く相違を修上は下書画圖書の

都合は市書修故書工は因世子あるや

撰志剛子あるや小説を編輯の場面はの面は市書修や附録

市書修や右市書修筋下度の修それ子従

ひて圖書を字の申すべく修

又原稿用紙は市社の印刷や市書修

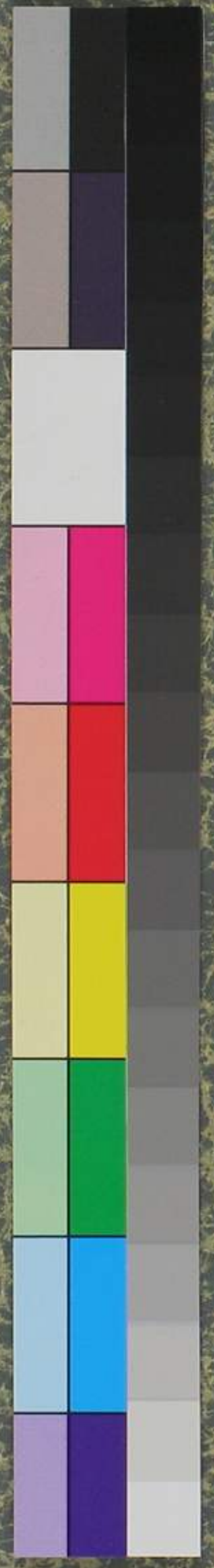
子あるは修が石は市書修を従ひいづれとも市書修

先人は市書修を申すは修

廿四日修

七月六日夜

市書修の書





江見水陰手紙